

研究テーマ 心臓リハビリテーション立ち上げの取り組みと実際

病 院 名 医療法人社団健育会 湘南慶育病院

演 者 ○^{やまもと なおや}山本直弥(理学療法士) 今野翔太(理学療法士) 柚山昇範(理学療法士)
本多稔(理学療法士) 田村良子(理学療法士) 山岡洸(作業療法士)
丸山祥(作業療法士) 久保雅昭(理学療法士)

概 要

【概要】

2022年度の診療報酬改定により、回復期リハビリテーションを要する状態について「急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態」が追加され、回復期病棟での心大血管リハビリテーションの算定が可能となった。当院では、2023年度より心大血管リハビリテーション料Ⅰの算定基準を満たし、実践を開始している。本報告は、心臓リハビリテーション立ち上げからの経過および今後の展望について、症例報告を交えながら述べたものである。

【立ち上げからの経過】

心大血管リハビリテーション料Ⅰの算定にあたり、施設基準を満たす必要がある。当院は、運動負荷試験装置を含む器械や器具は揃っており、加えて場所の確保や専従の看護師、理学療法士を配置することは可能であったが、循環器内科医が不在でありこれまで施設基準を満たせずにいた。しかし、2023年度より循環器内科医が常勤で入職、併せて人員の配置や機能訓練室を整備し、算定基準を満たすことができたため心臓リハビリテーションを開始するに至った。開始当初は、近隣病院、クリニックへの営業を行い、広報活動を行った(約70件)。また、院外研修として、PT3名が急性期病院、外来施設で研修を実施した。加えて、病院内では、心大血管患者の受け入れ体制を整えるため、治療に関わるスタッフに対して循環器内科医からの講義を3回、PT、OT、Nsからの講義をそれぞれ1回ずつ実施した。心臓リハビリテーションを開始してから徐々に心大血管患者の入院が増加し、これまで一般病棟2名、地域包括ケア病棟6名、回復期病棟6名の計14名の入院患者を受け入れている。また外来心臓リハビリテーションも開始し、これまで5名の患者が実践している。この内、回復期病棟で受け入れた2症例(教科書的な心臓リハビリテーションが合致した症例、ADLが低下した廃用症候群的症例)を紹介する。

【今後の展望】

入院および外来の心臓リハビリテーション患者の増加を目指すとともに、心臓リハビリテーションの考え方を応用し、近隣の公園(畑)を利用した園芸リハビリテーションや地域在住の方が安全に運動ができるよう市営のトレーニングセンターのスタッフ教育など、病院と地域の繋がりも強化していきたい。